

活魚輸出拡大連携推進協議会

■取組の背景

- 国内ではコロナウィルスの感染拡大による飲食店の営業自粛の影響で、活魚需要が低迷していた。
- 一方で、世界的には水産物需要の拡大が進んでおり、特に中国の水産物市場は活魚が主体である。しかし、日本から中国への水産物の輸出形態は鮮魚が主体であり、中国の水産物市場において十分なシェアを獲得できていない。

■取組の目的

- 新たな活魚輸出システムの構築
- 高速フェリーを活用した海上輸送スキームの検討
- 活魚輸出による中国向け輸出拡大

■協議会の構成員と役割

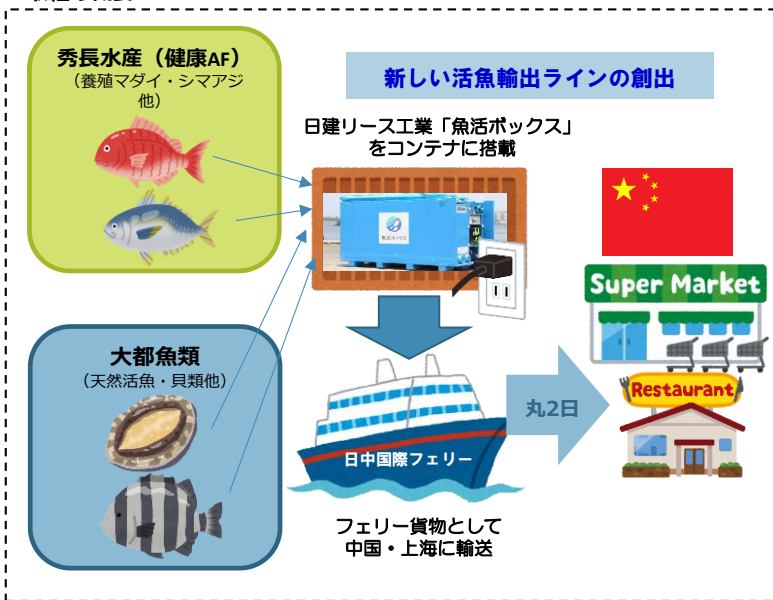
	段階	名称	具体的な取組内容
事業実施者	生産	秀長水産株式会社	・輸出対象魚の生産、出荷
	生産	健康アкваファームズ株式会社	・輸出対象魚の生産、出荷
	流通輸出	大都魚類株式会社	・輸出対象魚の仕入れ、輸出
	流通	日建リース工業株式会社	・活魚輸送システムの構築
	流通輸出	日中国際フェリー株式会社	・活魚輸出への協力

■取組内容

生産	◆活魚輸出システムの構築 ✓ 輸出対象魚の選定＞現地のニーズを踏まえ、輸送に適した魚種を選定 ✓ 「魚活ボックス」を用いた活魚輸送実証試験＞日建リース工業㈱の活魚輸送システム「魚活ボックス」をリーファーコンテナ内に設置し、輸出を想定した活魚輸送実証試験を実施。実証試験では、水温の変化や活魚の死亡率について検証を行い、 活魚輸出システムの構築 に向けて改善を行う ✓ 活魚輸出システムの確立に向けた検討
	◆高速フェリーを活用した海上輸送スキームの検討 ✓ 活魚輸出システムを用いた海上輸送スキームの検討＞コロナ禍において旅客の乗車率が低下したフェリーを活用し、 新たに構築した活魚輸出システムをフェリーへ積込む海上輸送スキームを検討 ✓ 輸出条件の調整・確認＞活魚輸出システムによって輸出を行うために、各種輸出の条件対象魚は活魚の状態でストックされており、注文を受けてから加工を行うため、 高鮮度な製品の製造が可能
加工・流通	
輸出	◆中国における日本産活魚の販路開拓 ✓ 中国向けの活魚輸出実証試験＞活魚輸出システムが構築されたのちに、実際に 中国に向けた活魚輸出実証試験 を行う。 ✓ 現地の飲食店や量販店向けの販路開拓＞活魚文化である中国では飲食店や量販店において活魚水槽が設置されている店舗が大半であるため、 現地の飲食店や量販店を対象として日本産活魚の販路開拓 を図る。

新たな活魚輸送システムによる中国市場への参入

■取組の概要



■取組の現状と今後の展望

- 「魚活ボックス」を用いた活魚輸出システムの構築に向け、輸送試験を実施。魚体の死亡率を下げるために調整を続けている。
- 活魚輸出システムの検討と同時に並行で、輸出に向けた条件・仕様の確認、調整を進めている。

★本取組によって得られたバリュー★

課題解決（物流面）

フェリーを活用した新たな活魚輸出システムの構築

販路開拓

現地の飲食店及び量販店に向けた販路開拓